

1 全体像	2・3 旧石器と縄文	4・5 弥生とくに	6・7 中国の歴史書	8・9 古墳と大和政権	10 まとめ
-------	------------	-----------	------------	-------------	--------

1

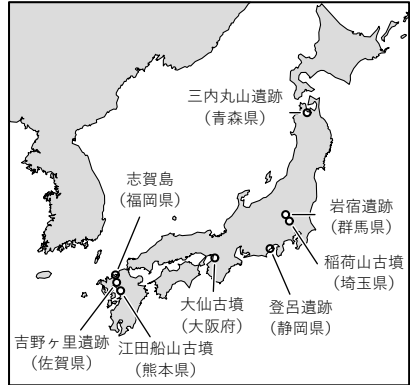
この単元の全体像 — 日本列島では、どのようにして国ができていった？

このページのゴール

旧石器時代から古墳時代までの4つの時代の順と、この単元で学ぶ4つのことを、ざっと言える

前半のプリントでは、世界の各地で農耕が始まり、文明や国が生まれたことを学びました。では、日本列島ではどうだったのでしょうか。小学校で学んだ縄文時代・弥生時代・古墳時代（土偶・米づくり・卑弥呼・前方後円墳）を、「国ができるまで」の流れで見直します。日本にはまだ文字が無かったので、遺跡や土器などの出土品と、中国の歴史書から分かります。

旧石器時代 (氷河時代)	縄文時代 (約1万数千年前から)	弥生時代 (稲作が広まってから)	古墳時代 (3世紀後半から)
打製石器を使い、移動しながらくらし た	縄文土器を使い、むらをつくって住み続 けた	米づくりが始まり、「くに」が生まれ た	大きな墓がつくられ、力の強い王が現れ た
くわしくは2ページ	くわしくは3ページ	くわしくは4・5ページ	くわしくは8・9ページ



地図：Natural Earth

- ① 旧石器時代と縄文時代のくらし くわしくは2・3ページ

氷河時代の日本列島と、狩りや採集でくらした人々のようすを学びます。
- ② 稲作と「くに」の始まり くわしくは4・5ページ

米づくりが伝わり、むらがまとまって「くに」になるまでを学びます。
- ③ 中国の歴史書に書かれた日本 くわしくは6・7ページ

中国の歴史書の文を読んで、当時の日本のようすをつかみます。
- ④ 古墳と大和政権 くわしくは8・9ページ

大きな古墳をつくった王の力と、朝鮮半島や中国とのつながりを学びます。

この単元の問い

日本列島では、大陸とどのように関わりながら、国ができていった？（答えは10ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91e5%8f%a4%e4%bb%a3%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%ae%e6%88%90%e) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90e4%b8%ad1%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e6%ad%b4%e5%8f%b2%e3%80%91e5%8f%a4%e4%bb%a3%e6%97%a5%e6%9c%ac%e3%81%ae%e6%88%90%e>

2 日本列島に、人々はいつ、どのようにやってきた？

このページのゴール 氷河時代の日本列島のように、日本の旧石器時代のくらしを言える



■ 海面が今より120m低いときの陸地
— 今の海岸線

標高：NOAA ETOPO 2022 地図：Natural Earth

日本列島ができるまで

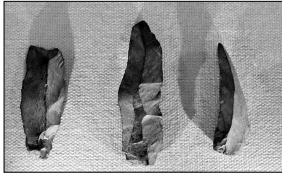
- ① 氷河時代（長く続いた寒い時代）は、陸の氷がふえて海面が今より低く、日本列島は大陸と陸続きのときがあった
- ② ナウマンゾウなどの大型の動物が大陸からわたってきて、人々も動物を追ってわたってきた
- ③ 約1万年前までに気温が上がり、海面が上がった
- ④ 今の日本列島の形ができた

海面が下がると、なぜ陸続きになる？

日本と大陸の間の海には、浅い所があります。海面が120mほど下がると、浅い所が陸になります（図で、今の海岸線より外に広がるうすい灰色の所）。

氷河時代、日本列島は大陸と陸続きのときがあり、人々は大型の動物を追ってわたってきた。約1万年前までに海面が上がって、今の日本列島の形ができた

② 日本の旧石器時代と岩宿遺跡



打製石器
(群馬県の岩宿遺跡)

写真：Saigen Jiro（パブリックドメイン）。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

日本の旧石器時代の人々は、前半のプリントで学んだ打製石器を使い、狩りや木の実などの採集をして、食べ物を求めて移動しながらくらししました。

群馬県の岩宿遺跡では、火山灰が積もってきた赤土の層から、打製石器が見つかりました。

発見で、考えが変わった

- ① それまで：赤土の層ができたころの日本には、人は住んでいなかったと考えられていた
- ② 岩宿遺跡のその層から、打製石器が見つかった
- ③ 日本にも旧石器時代があったことが分かった

→ 人々は大陸から日本列島にわたってきて、移動しながらくらししていた

注意 × 日本には、旧石器時代はなかった → ○ 岩宿遺跡で打製石器が見つかり、あったと分かった

3 縄文時代の人々は、自然とどのようにくらしていた？

このページのゴール 縄文時代のくらしを、自然の変化とつなげて、道具・食べ物・貝塚・住まい・祈りの順に言える

約1万数千年前から縄文時代が始まりました。気温が上がると、自然もくらしも変わりました。

自然の変化	くらしの変化
大型の動物が減り、シカ・イノシシなど動きの速い動物がふえた	弓矢で動物をとった
森が広がり、どんぐり・くり・くるみなどの木の実がふえた	土器で煮たり、たくわえたりした
海が陸に入りこみ、魚や貝がとれるようになった	漁をして、貝を食べた

	縄文のくらし5つ
道具	<u>縄文土器</u> ・ <u>磨製石器</u> ・ <u>弓矢</u> 。打製石器もいっしょに使った
食べ物	木の実・動物・魚や貝（狩り・漁・採集）
ごみ捨て場	<u>貝塚</u> ：食べ物の残りの貝がらや動物の骨などを捨てた所。何を食べていたかが分かる。今は海から遠い所の貝塚は、そのころ海が陸の奥まで入りこんでいた証拠
住まい	<u>たて穴住居</u> ：地面を掘り下げて柱を立て、屋根をかけた住まい。むらをつくり、1か所に住み続けた（ <u>定住</u> ）
祈り	<u>土偶</u> ：土でつくった人形。魔よけや、食べ物が豊かになること・子どもが生まれることを祈るためにつくられたと考えられている



縄文土器



土偶
（青森県の亀ヶ岡遺跡）



大きな柱の建物と住居（復元）
（青森県の三内丸山遺跡）

写真：JackyM59（CC BY-SA 4.0）、Saigen Jiro（パブリックドメイン）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

写真：663highland（CC BY 2.5）。Wikimedia Commons より、白黒にした

縄文土器：縄目のような文様がついたものが多く、厚手で黒っぽい茶色。低い温度で焼いた

青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大きなむらのあとです。大きなたて穴住居や大きな柱のあとが見つかり、大きな建物があったと考えられています。くりの木も育てていたと考えられています。

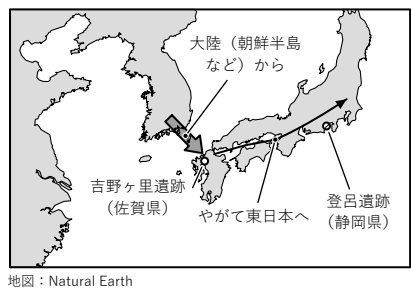
→ 1か所に住み続け、むらをつくってくらすようになった

注意 × 磨製石器が使われるようになると、打製石器は使われなくなった → ○ 役割がちがうので、どちらも使った

合言葉 「道具・食べ物・貝塚・住まい・土偶」

4 米づくりが伝わると、どんな道具や建物が使われるようになった？

このページのゴール 稲作の広まりと、弥生土器・石包丁・高床倉庫・金属器を、使いみちといっしょに言える



縄文時代の終わりごろ、大陸（朝鮮半島など）から九州北部に稲作が伝わり、やがて東日本にも広まりました。

稲作が広まった時代を弥生時代という。人々は水田の近くにむらをつくり、木のくわやすきで田を耕した

	縄文土器	弥生土器
厚さ	厚手	薄手でかたい
色	黒っぽい茶色	赤っぽい茶色
温度	低い温度で焼く	やや高い温度で焼く
名前	縄目の文様が多い	東京都の弥生町で最初に見つかった

石包丁は、稲の穂をつみとる磨製石器です。**高床倉庫**は、床を高くして湿気やねずみを防ぎ、米をたくわえた倉庫です。柱の上の方には、ねずみが登れないように板（**ねずみ返し**）を付けました。

静岡県の登呂遺跡では、水田のあとや高床倉庫のあとが見つかっています。

	青銅器	鉄器
例	銅鐸・銅鏡・銅剣・銅矛	武器・農具・工具
使いみち	おもに祭りの道具	実際の道具として使う

弥生時代には、**金属器**（青銅器と鉄器）が、大陸から同じころに伝わりました。



弥生土器
(大阪府の船橋遺跡)

写真：東京国立博物館 (CC BY 4.0)、名古屋太郎 (CC BY 4.0)。Wikimedia Commons より、白黒にした



銅鐸
(滋賀県の大岩山)



高床倉庫（復元）
(静岡県の登呂遺跡)

写真：Fg2 (パブリックドメイン)、Pekachu (CC BY-SA 4.0)。Wikimedia Commons より、白黒にした



石包丁
(佐賀県の吉野ヶ里遺跡)

→ 米をつくり、たくわえるくらしが始まった

注意 × 弥生土器は、厚手で黒っぽい → ○ それは縄文土器。弥生土器は薄手でかたい

合言葉 「鉄は武器と道具、青銅はおもにお祭り」

5 米づくりで、むらどうしの関係はどう変わった？

このページのゴール 稲作から、身分の差・争い・くにと王が生まれた流れを言える

① むらから「くに」へ

- ① 米をたくわえられるようになる
なぜ：稲作では、たくさんとれた米を倉庫にためておけるから
- ② たくわえの多い人と少ない人ができる（貧富の差）。むらを指導する人と従う人ができる（身分の差）
なぜ：たくわえの多い人や指導する人が、力を持つようになるから
- ③ 土地や水、たくわえをめぐって、むらどうしが争う
なぜ：米づくりには、田に使う土地や水が欠かせないから
- ④ 強いむらが周りのむらを従えて、小さな「くに」になる
なぜ：争いに勝ったむらが、負けたむらを従えるから
- ⑤ くいを治める王が現れる
なぜ：くにをまとめて指導する人が必要になるから

② 吉野ヶ里遺跡から分かること



佐賀県（九州の北部）の吉野ヶ里遺跡は、周りを深い堀やさくで囲んだ大きなむらのあとです。

見つかった物	分かること
深い堀とさく、物見やぐらのあと	争いに備えていた
大きなむら	多くの人をまとめる王がいたと考えられている

写真：小池 隆（CC BY 3.0）、そらみみ（CC BY-SA 4.0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

③ 縄文時代と弥生時代をくらべる

	縄文時代	弥生時代
食べ物の手に入れ方	狩り・漁・採集	稲作も加わった
たくわえ	少ない	米をたくわえる
身分の差	ほとんど無かったと考えられている	ある
むらどうしの争い	少なかったと考えられている	ふえた
むらの守り	—	堀やさくで囲んだむらがあった

こうしてできた「くに」のようすは、中国の歴史書に書かれています（6・7ページ）。

→ むらがまとまって「くに」になり、王が現れた

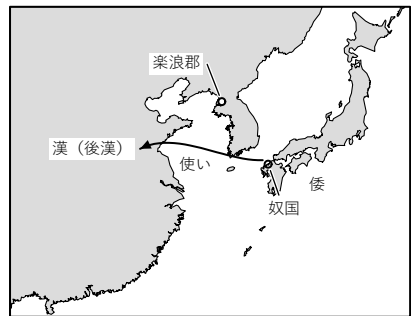
注意 × 弥生時代のむらは、どれも平和で争いは無かった → ○ 堀やさくで囲んだむらがあり、むらどうしの争いがあった

合言葉 「米がたまと差が生まれ、争いからくにへ」

6 文字の無かったころの日本のことが、なぜ分かる？

このページのゴール 『漢書』『後漢書』に書かれた倭のようすと、金印・朝貢の意味を言える

日本にはまだ文字がありませんでした。漢字を使っていた中国の王朝は、まわりの国のことも歴史書に書きました（前半のプリントで学んだ漢のことです）。中国は日本を「倭」とよびました。



地図：Natural Earth

史料A 『漢書』地理志

楽浪郡の海のかなたに倭人がいて、100余りの国に分かれている。決まった時期に、みつぎ物を持ってあいさつに来るという。

（やさしく書きかえ、一部を省いた）

史料B 『後漢書』東夷伝

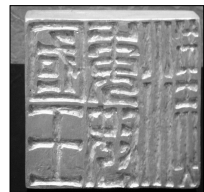
57年、倭の奴国が、みつぎ物を持ってあいさつに来た。……光武帝（後漢の皇帝）は、印（はんこ）とそれを結ぶひもを授けた。

（やさしく書きかえ、一部を省いた）

楽浪郡は、朝鮮半島にあった漢の拠点です。

史料の読み方：「いつ・だれが・何をした」を抜き出す（史料Bの場合）

いつ	だれが	何をした
57年	奴国（の王）が	後漢に使いを送り、印を授けられた



金印の印の面
（福岡県の志賀島で発見）

写真：PHGCOM（CC BY-SA 3.0）。Wikimedia Commons
より、白黒にして切り取った
（一部は左右を反転）

奴国の王が授けられた金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で見つかりました。印には「漢委奴国王」（漢の委〈倭〉の奴の国王）と刻まれています。奴国は、今の福岡県のあたりにあったと考えられています。

朝貢：中国の皇帝に使いを送り、みつぎ物をさし出して、王として認めてもらうこと

朝貢すると、何がよい？

- ① 中国の皇帝に使いを送り、みつぎ物をさし出す
- ② 皇帝が王と認め、金印や品物を授ける
- ③ 皇帝の後ろだてで、国内のほかのくにより強い立場に立てる

→ くにの王が、中国の皇帝に認めてもらって力を強めようとした

注意 × 金印は、奴国の王が日本でつくらせた → ○ 後漢の皇帝が授けた

7 邪馬台国の卑弥呼は、どのようにして国々をまとめた？

このページのゴール 『魏志』倭人伝を読んで、卑弥呼と邪馬台国のようすを言える

史料C 『魏志』倭人伝

倭には、もとは100余りの国があったが、今、使いが行き来しているのは30ほどの国である。……倭の国は、もとは男の王が治めていたが、国が乱れ、何年も争いが続いた。そこで国々は、共に一人の女性を王に立てた。名を卑弥呼という。卑弥呼はまじないを行い、人々をひきつけた。……239年、倭の女王は魏に使いを送ってきた。……魏の皇帝は、卑弥呼を「親魏倭王」とし、金印や銅鏡100枚などを授けた。

(やさしく書きかえ、一部を省いた)

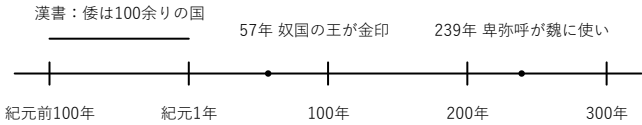
『魏志』倭人伝から分かること（史料Cで省いた所もふくむ）	
いつ	3世紀（239年）
どこ	倭の 邪馬台国 （どこにあったかは、まだ分かっていない）
だれ	女王 卑弥呼
何をした	争いの後に王に立てられ、まじないで30ほどの国をまとめた。魏に使いを送り、「 親魏倭王 」の称号と金印・銅鏡100枚などを授けられた

卑弥呼：邪馬台国の女王。まじないで政治を行い、30ほどの国をまとめた

3つの歴史書をくらべる

歴史書	王朝	いつごろ	書かれていること
『漢書』地理志	漢	紀元前1世紀ごろ	倭は100余りの国に分かれていた
『後漢書』東夷伝	後漢	57年	奴国の王が金印を授けられた
『魏志』倭人伝	魏	3世紀（239年）	卑弥呼が30ほどの国をまとめた

中国の王朝は、漢 → 後漢 → 魏の順です。年代の線に表すと、次のようになります（前半のプリントで学んだ「紀元前」の数え方）。



史料Aと史料Cをくらべる

史料Aでは「100余りの国」、史料Cでは「30ほどの国」です。国の数が減っているのが、くにどうしがまとまり、大きくなりができていったと考えられます（5ページの流れの続き）。

→ 争いの後、女王のもとで、30ほどのくにがまとまった

注意 × 『魏志』倭人伝は、日本でつくられた歴史書 → ○ 中国（魏）の歴史書

8 大きな古墳は、何を教えてくれる？

このページのゴール 前方後円墳・埴輪と、大和政権の力が九州から関東まで広がったことを、証拠といっしょに言える



大仙古墳（上から写した物）
（大阪府堺市）

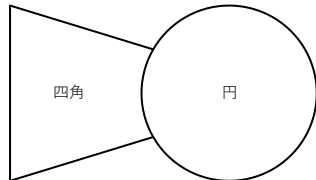


埴輪（馬）

王や豪族の墓を古墳という。土を盛り上げてつくり、3世紀後半から各地でつくられた

豪族とは、その地域を支配する有力な一族です。古墳の上や周りには、人や馬などの形をした焼き物の埴輪が並べられ、鏡・玉・鉄の武器などもいっしょにおさめられました。

写真：国土地理院撮影の空中写真（2007年撮影）、Cleveland Museum of Art（CC0）。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った



前方後円墳（上から見た形）

前が四角、後ろが円の形（上から見るとかぎ穴のような形）を前方後円墳といいます。大阪府堺市の大仙古墳（仁徳陵古墳）は日本最大の前方後円墳で、墳丘の長さは約486m（学校の100mの直線を5本つなげたくらい）です。それだけ多くの人を動かせる力をもった王がいたことが分かります。



地図：Natural Earth

大和政権（ヤマト王権ともいう）：3世紀後半ごろ、奈良盆地を中心とする地域の有力な豪族たちがまとまってできた勢力。王は大王とよばれた

大和政権の力が広がった証拠
① 大きな前方後円墳が近畿地方（奈良県・大阪府）に多く、同じ形の古墳が各地にもつくられた（大和政権に従った豪族もつくった）
② <u>稲荷山古墳</u> （埼玉県）の鉄剣と <u>江田船山古墳</u> （熊本県）の鉄刀に、同じ「 <u>ワカタケル大王</u> 」の名が刻まれている（どちらも5世紀）

→ 5世紀には、関東から九州まで大王の力が及んでいた

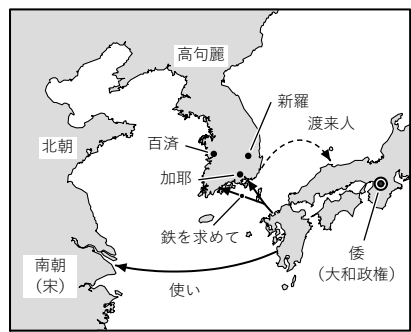
→ 大和政権が、各地の豪族を従えて、広い地域をまとめた

注意 × 大仙古墳は、奈良県にある → ○ 大阪府（堺市）にある

合言葉 「ワカタケルの名が、埼玉と熊本から」

9 大和政権は、朝鮮半島や中国とどのように関わった？

このページのゴール 4〜5世紀の朝鮮半島の国々と大和政権の関わり、渡来人が伝えた技術と文化を言える



地図：Natural Earth

位置	国
北部	<u>高句麗</u>
南西部	<u>百済</u>
南東部	<u>新羅</u>
南部	<u>加耶（加羅）</u> 地域（小さな国々の集まり）

大和政権は、鉄などの資源を求めて、百済や加耶地域の国々と結びつき、高句麗や新羅と戦いました。5世紀の中国は南北に分かれ、南の王朝を南朝といいます。このころ、倭の五王とよばれる倭の5人の王が、南朝の宋にたびたび使いを送りました（『宋書』倭国伝）。朝鮮半島での立場を示す高い地位（称号）を、皇帝に認めてもらおうとしたのです（6ページの朝貢と同じ考え方）。

渡来人：朝鮮半島などから日本に移り住んだ人々



須恵器
（島根県の御崎山古墳）
写真：Saigen Jiro（パブリックドメイン）。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

	渡来人が伝えたもの
技術	<u>須恵器</u> （かたくて灰色の土器）・ <u>機織り</u> ・金属を加工する技術・土木（ため池など）
文化	<u>漢字</u> ・ <u>儒教</u> （孔子の教え）・ <u>仏教</u> （6世紀に百済から正式に伝わった）

渡来人は、大和政権で、漢字を使った記録や、財政・外交の仕事にあたりました。

土器の移り変わり	縄文土器	弥生土器	須恵器
焼き方	低い温度	やや高い温度	窯で高い温度
色・かたさ	黒っぽい茶色・厚手	赤っぽい茶色・薄くかたい	灰色でかたい

→ 大陸から伝わった技術や文化で、大和政権は力を強めた

注意 × 渡来人は、日本から朝鮮半島にわたった人々 → ○ 朝鮮半島などから日本に移り住んだ人々

合言葉 「鉄を求めて海の向こうへ、技術と文字は渡来人から」

10 日本列島では、大陸とどのように関わりながら、国ができていった？

このページのゴール 4つの時代を表でくらべて、国ができていった流れを、大陸とのつながりといっしょに言える（1ページの問いの答え）

① 4つの時代をくらべる

	道具とくらし	むらや社会のようす	大陸とのつながり
旧石器時代	打製石器を使い、狩りや採集をした	食べ物を求めて移動しながらくらし	氷河時代に、大型の動物を追って大陸からわたってきた
縄文時代	縄文土器・磨製石器・弓矢を使った。貝塚ができた	たて穴住居でむらをつくり、定住した	海面が上がり、大陸と海でへだてられた（今の日本列島の形ができた）
弥生時代	稲作を行い、弥生土器・石包丁・高床倉庫・金属器を使った	身分の差や争いが生まれ、むらがまとまって「くに」になり、王が現れた	大陸から稲作や金属器が伝わった。王が中国の皇帝に朝貢した
古墳時代	古墳がつくられ、埴輪が並べられた	大和政権が、各地の豪族を従えて、広い地域をまとめた	朝鮮半島の国々と結びつき、倭の五王が宋に使いを送った。渡来人が技術や文化を伝えた

② 年表

年	できごと	年	できごと
氷河時代	大陸と陸続きのときがあった	57年	奴国の王が金印を授けられる
約1万数千年前	縄文時代の始まり	239年	卑弥呼が魏に使いを送る
約1万年前	今の日本列島の形ができる	3世紀後半	古墳がつくられ始める・大和政権
縄文時代の終わりごろ	稲作が伝わる → 弥生時代	5世紀	倭の五王が宋に使いを送る・ワカタケル大王
紀元前1世紀ごろ	倭は100余りの国（『漢書』地理志）	6世紀	仏教が伝わる

③ 問いの答えの例

稲作や金属器が大陸から伝わり、米をたくわえるようになると、身分の差や争いが生まれ、くにと王が現れた。くのに王は中国の皇帝に朝貢して力を強め（奴国・卑弥呼）、やがて大和政権が各地の豪族を従えた。大和政権は鉄を求めて朝鮮半島と関わり、渡来人が伝えた技術や文化を取り入れて力を強めた。

注意 × 日本の国は、大陸と関わらずにできた → ○ 稲作・金属器・漢字などの大陸の物や、中国の皇帝の後ろだてが、国づくりに大きく関わった

確認問題① 旧石器時代・縄文時代・弥生時代

答えと解説は15～17ページ（8・9枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

1 日本列島の誕生と旧石器時代について、次の問いに答えなさい。【2ページ】

- (1) 氷河時代、日本列島は大陸と、どのような状態のときがありましたか。 _____
- (2) 氷河時代に、大陸から日本列島へわたってきた大型の動物を1つ書きなさい。 _____
- (3) 今の日本列島の形ができたのは、今から約何年前ですか。 _____
- (4) 群馬県にあり、火山灰が積もった赤土の層から石器が見つかった遺跡を、何といいますか。 _____
- (5) (4)の遺跡の発見で、何が分かりましたか。正しいものを選びなさい。
ア 日本には人が住んでいなかったこと イ 日本にも旧石器時代があったこと ウ 日本で米づくりが始まっていたこと _____
- (6) 正しいものには○、まちがっているものには×を書きなさい。氷河時代には、海面が今より高かった。 _____

2 縄文時代の暮らしについて、次の問いに答えなさい。【3ページ】

- (1) 地面を掘り下げて柱を立て、屋根をかけた住まいを、何といいますか。 _____
- (2) 食べ物の残りの貝がらや動物の骨などを捨てた所を、何といいますか。 _____
- (3) 魔よけや豊かさを祈ってつくられたと考えられている、土でつくった人形を、何といいますか。 _____
- (4) 青森県にある、縄文時代の大きなむらのあとを、何といいますか。 _____
- (5) ①～③の自然の変化によって始まったくらしを、ア～ウから選んで、記号で答えなさい。
①動きの速い動物がふえた（ ） ②森が広がり、木の実がふえた（ ） ③海が陸に入りこみ、魚や貝がとれるようになった（ ）
ア 漁をした イ 弓矢でとった ウ 土器で煮たり、たくわえたりした
- (6) 今は海から遠い所にある(2)から、どのようなことが分かりますか。正しいものを選びなさい。
ア そのころは海が無かったこと イ そのころの人々は海を知らなかったこと ウ そのころは海が今より陸の奥まで入りこんでいたこと _____
- (7) 正しいものには○、まちがっているものには×を書きなさい。縄文時代には、磨製石器が使われるようになったので、打製石器は使われなくなった。 _____

3 弥生時代の暮らしについて、次の問いに答えなさい。【4ページ】

- (1) 縄文時代の終わりごろに大陸から九州北部に伝わり、やがて東日本にも広まった農業を、何といいますか。 _____
写真のAとBは、縄文土器と弥生土器のどちらかです。
- (2) 弥生土器は、A・Bのどちらですか。 _____
- (3) (2)のように考えた理由を、写真から分かる土器の持ちょうをもとに書きなさい。



写真：JackyM59（CC BY-SA 4.0）、東京国立博物館
（CC BY 4.0）。Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

縄文土器と弥生土器をくらべた次の表の（4）～（6）にあてはまることばを書きなさい。

	縄文土器	弥生土器
厚さ	(4) _____	薄手でかたい
色	黒っぽい茶色	(5) _____
焼いた温度	(6) _____	やや高い温度

- (7) 稲の穂をつみとるのに使われた、弥生時代の磨製石器を、何といいますか。 _____
- (8) 米をたくわえた倉庫の床が高くなっているのは、なぜですか。 _____
- (9) 銅鐸や銅鏡など、おもに祭りの道具として使われた金属器を、何といいますか。 _____
- (10) 静岡県にあり、水田のあとや高床倉庫のあとが見つかった遺跡を、何といいますか。 _____

確認問題② むらから「くに」へ・中国の歴史書

4 むらから「くに」へのうつり変わりについて、次の問いに答えなさい。【5ページ】

- (1) 次のア～オを、むらが「くに」になるまでの正しい順に並べなさい。
ア 強いむらが周りのむらを従えて、小さな「くに」になる イ 米をたくわえられるようになる ウ 土地や水をめぐって、むらどうしが戦う
エ たくわえの多い人と少ない人、指導する人と従う人ができる オ 「くに」を治める人が現れる _____
- (2) たくわえの多い人と少ない人の間にできた差を、何といいますか。 _____
- (3) むらを指導する人と従う人の間にできた差を、何といいますか。 _____
- (4) 「くに」を治めた人は、何とよばれましたか。 _____
- (5) 周りを深い堀やさくで囲んだむらがあったことから、どのようなことが考えられますか。正しいものを選びなさい。
ア むらどうしの争いがあった イ 人々が移動しながらくらしていた ウ 米をつくっていなかった _____
- 縄文時代と弥生時代のくらしをくらべた次の表の (6) (7) にあてはまることを書きなさい。

	縄文時代	弥生時代
食べ物の手に入れ方	狩り・漁・採集	(6) _____
むらどうしの争い	(7) _____	ふえた

5 中国の歴史書に書かれた日本について、次の問いに答えなさい。【6・7ページ】

- 史料A**
楽浪郡の海のかなたに倭人がいて、100余りの国に分かれている。決まった時期に、みつぎ物を持ってあいさつに来るといふ。
- 史料B**
57年、倭の奴国が、みつぎ物を持ってあいさつに来た。……光武帝（後漢の皇帝）は、印（はんこ）とそれを結ぶひもを授けた。
- 史料C**
倭には、もとは100余りの国があったが、今、使いが行き来しているのは30ほどの国である。……倭の国は、もとは男の王が治めていたが、国が乱れ、何年も争いが続いた。そこで国々は、共に一人の女性を王に立てた。名を卑弥呼という。卑弥呼はまじないを行い、人々をひきつけた。……239年、倭の女王は魏に使いを送ってきた。……魏の皇帝は、卑弥呼を「親魏倭王」とし、金印や銅鏡100枚などを授けた。
- 史料A～Cは、次のア～ウのどの歴史書の一部ですか。記号で答えなさい。 ア『魏志』倭人伝 イ『漢書』地理志 ウ『後漢書』東夷伝
- (1) 史料A _____ (2) 史料B _____ (3) 史料C _____
- (4) 史料Bの印は、江戸時代に福岡県の何という島で見つかりましたか。 _____
- (5) (4) の印に刻まれていた5文字を書きなさい。 _____
- (6) 史料Cの女王が治めた国の名前を書きなさい。 _____
- (7) 史料Aと史料Cをくらべて考えられることとして、最も適切なものを選びなさい。
ア 国の数がふえ、小さくなくにがたくさんできていった イ 国の数が減り、くにどうしがまとまって大きなくにができていった ウ 国の数は変わらなかった _____
- (8) 中国の皇帝に使いを送り、みつぎ物をさし出して、王として認めてもらうことを、何といいますか。 _____
- (9) (8) をすると、倭の王にとって、どのようなよいことがありましたか。正しいものを選びなさい。
ア 中国の軍隊に日本を守ってもらえた イ 中国に納める税がなくなった ウ 皇帝の後ろだてで、国内のほかのくにより強い立場に立てた _____
- (10) 当時の日本のことが、中国の歴史書から分かるのは、なぜですか。 _____
- _____
- _____

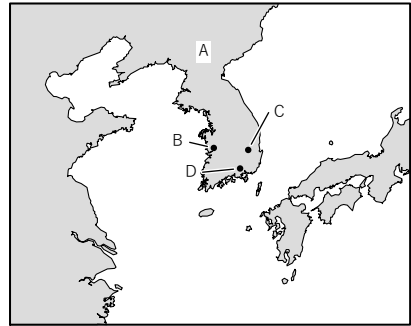
確認問題③ 王や豪族・朝鮮半島・まとめ

6 各地の王や豪族と、その勢力について、次の問いに答えなさい。【8ページ】

- (1) 王や豪族の墓で、土をもり上げてつくったものを、何とといいますか。 _____
- (2) 前が四角、後ろが円の形をした(1)を、何とといいますか。 _____
- (3) 大阪府にある、日本最大の(2)を、何とといいますか。 _____
- (4) (1)の上や周りに並べられた、人や馬などの形をした焼き物を、何とといいますか。 _____
- (5) 3世紀後半ごろ、奈良盆地を中心とする地域の有力な豪族たちがまとまってできた勢力を、何とといいますか。 _____
- (6) (5)の王は、何とよばれましたか。 _____
- (7) 埼玉県の鉄剣と熊本県の鉄刀に、共通して刻まれていた名前を書きなさい。 _____

7 朝鮮半島と日本の関わりについて、次の問いに答えなさい。【9ページ】

地図のA～Dは、4～5世紀の朝鮮半島にあった国や地域です。



地図：Natural Earth

- (1) Aの国名を書きなさい。 _____
- (2) Bの国名を書きなさい。 _____
- (3) Cの国名を書きなさい。 _____
- (4) Dの地域の名前を書きなさい。 _____
- (5) 日本の王たちが、鉄などの資源を求めて結びついた国や地域を、A～Dから2つ選びなさい。 _____

- (6) 5世紀、中国の南朝にたびたび使いを送った倭の5人の王を、まとめて何とといいますか。 _____
- (7) 朝鮮半島などから日本に移り住んだ人々を、何とといいますか。 _____
- (8) 次のア～ウを、使われ始めた順に並べなさい。 ア 須恵器 イ 縄文土器 ウ 弥生土器 _____

8 日本列島のうつり変わりをまとめた、次の表について答えなさい。【10ページ】

	道具やくらし	社会のようす	大陸とのつながり
旧石器時代	(1) _____ を使い、狩りや採集をした	移動しながらくらしした	動物を追って大陸からわたってきた
縄文時代	縄文土器・弓矢を使った	むらをつくって、(2) _____ した	海面が上がり、大陸と海でへだてられた
弥生時代	稲作を行い、金属器を使った	身分の差や争いが生まれ、(3) _____ と王が現れた	稲作や金属器が伝わった
3世紀後半ごろから	大きな墓をつくった	各地の豪族を従えた	(4) _____ が技術や文化を伝えた

- (5) 次のア～エを、古い順に並べなさい。 ア 各地で王や豪族の大きな墓がつくられ始める イ 稲作が伝わる ウ 仏教が正式に伝わる
- エ 今の日本列島の形ができる _____

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

日本列島の誕生・旧石器時代・縄文時代

氷河時代、日本列島は大陸と陸続きのときがあり、ナウマンゾウなどを追って人々がわたってきた → 約1万年前、今の日本列島の形ができた。群馬県の岩宿遺跡で打製石器が見つかり、日本にも旧石器時代があったと分かった。

道具＝縄文土器・磨製石器・弓矢（打製石器も使う）／食べ物＝木の実・動物・魚や貝／貝塚＝食べ物の残りを捨てた所／たて穴住居＝掘り下げて柱を立てた住まい（定住）／土偶＝祈りのための人形（と考えられている）。三内丸山遺跡（青森県）＝大きなむらのあと。

土器	縄文土器	弥生土器	須恵器
焼き方・色	低い温度・黒っぽい茶色・厚手・縄目の文様	やや高い温度・赤っぽい茶色・薄くかたい	窯で高い温度・灰色でかたい

稲作と弥生時代

稲作＝縄文時代の終わりごろ、大陸から九州北部に伝わり、東日本へ広まった。石包丁（稲の穂をつみとる）・高床倉庫（湿気とねずみを防ぐ）。登呂遺跡（静岡県）。

	青銅器	鉄器
例・使いみち	銅鐸・銅鏡・銅剣・銅矛。おもに祭りの道具	武器・農具・工具

むらから「くに」へ

米をたくわえる → 貧富の差・身分の差 → 土地や水、たくわえをめぐる争い → 強いむらが従えて「くに」になる → 王が現れる。吉野ヶ里遺跡（佐賀県）＝深い堀とさくで囲んだ大きなむらのあと。

中国の歴史書

歴史書	いつごろ	書かれていること
『漢書』地理志	紀元前1世紀ごろ	倭は100余りの国
『後漢書』東夷伝	57年	奴国の王が金印（漢委奴国王、志賀島で発見）
『魏志』倭人伝	3世紀（239年）	邪馬台国の卑弥呼が魏に使い、親魏倭王の称号

朝貢＝中国の皇帝に使いを送り、みつぎ物をさし出して、王として認めてもらうこと。邪馬台国の場所はまだ分かっていない。

古墳と大和政権

古墳＝王や豪族の墓。前方後円墳（前が四角、後ろが円）。大仙古墳（大阪府、日本最大）。埴輪。大和政権（3世紀後半、奈良盆地中心）、王＝大王。稲荷山古墳（埼玉県）・江田船山古墳（熊本県）に同じ「ワカタケル大王」の名 → 関東から九州まで力が及んでいた証拠。

朝鮮半島・倭の五王・渡来人

朝鮮半島：北部＝高句麗／南西部＝百済／南東部＝新羅／南部＝加耶（加羅）地域。大和政権は鉄を求めて百済・加耶と結びつく。倭の五王＝5世紀、南朝の宋に使いを送り、高い地位（称号）を求めた。渡来人（朝鮮半島などから移り住んだ人々）が伝えたもの：技術＝須恵器・機織り・金属加工・土木、文化＝漢字・儒教・仏教（6世紀に百済から）。

年表

氷河時代 大陸と陸続きのときがあった → 約1万数千年前 縄文時代が始まる → 約1万年前 日本列島の形ができる → 縄文時代の終わりごろ 稲作が伝わる（弥生時代へ） → 紀元前1世紀ごろ 倭が100余りの国 → 57年 奴国の王が金印 → 239年 卑弥呼が魏に使い → 3世紀後半 古墳・大和政権 → 5世紀 倭の五王・ワカタケル大王 → 6世紀 仏教が伝わる

合言葉 「道具・食べ物・貝塚・住まい・土偶」／「鉄は武器と道具、青銅はおもにお祭り」／「米がたまると差が生まれ、争いからくにへ」／「ワカタケルの名が、埼玉と熊本から」／「鉄を求めて海の向こうへ、技術と文字は渡来人から」

確認問題の答えと解説

1【2ページ】

(1) 陸続き（のときがあった） (2) ナウマンゾウ（マンモスも可） (3) 約1万年前
(4) 岩宿遺跡 (5) イ (6) ×
氷河時代は、陸の氷がふえて海面が今より低く、大陸と陸続きのときがありました。大型の動物を追って人々もわたってきました。約1万年前までに気温が上がり、海面が上がって今の形になりました。(5) 岩宿遺跡の赤土の層から打製石器が見つかり、それまで人は住んでいなかったと考えられていた日本にも、旧石器時代があったと分かりました。【2】

2【3ページ】

(1) たて穴住居 (2) 貝塚 (3) 土偶
(4) 三内丸山遺跡
(5) ①イ ②ウ ③ア
(6) ウ (7) ×
(5) 動きの速い動物には弓矢、木の実は土器で煮たりたくわえたり、魚や貝は漁です。(6) 貝塚は当時の海岸線の近くにできたので、今は海から遠い所にある貝塚は、そのころ海が陸の奥まで入りこんでいた証拠です。(7) 役割がちがうので、どちらの石器も使い続けました。【3】

3【4ページ】

(1) 稲作 (2) B
(3) 〈例〉Aには縄目のような文様が見られるが、Bにはそれが見られないから。
(4) 厚手 (5) 赤っぽい茶色（赤褐色） (6) 低い温度（で焼く）
(7) 石包丁
(8) 〈例〉湿気やねずみから、米を守るため。
(9) 青銅器 (10) 登呂遺跡
縄目の文様が多いのは縄文土器です。弥生土器は縄文土器より薄手でかたく、赤っぽい茶色で、やや高い温度で焼かれました。入れる語：(3)「縄目の文様」、(8)「湿気」「ねずみ」。銅鐸・銅鏡などは青銅器で、おもに祭りの道具です。【4】

4【5ページ】

- (1) **イ → エ → ウ → ア → オ** (2) **貧富の差**
(3) **身分の差** (4) **王** (5) **ア**
(6) **稲作が加わった** (7) **少なかった**

米をたくわえる → 差が生まれる → 土地や水をめぐる争い → 強いむらが従えて「くに」になる → 王が現れる、の順です。(5) 堀やさくは、争いに備えたものと考えられています。【5】

5【6・7ページ】

- (1) **イ** (2) **ウ** (3) **ア**
(1) 「100余りの国に分かれている」と今のようすを書き、王の名も年も無いので『漢書』地理志（史料Cの100余りは「もとは」の数）。(2) 「光武帝（後漢の皇帝）」が「印を授けた」とあるので『後漢書』東夷伝。(3) 「卑弥呼」「魏の皇帝」とあるので『魏志』倭人伝。【6・7】

- (4) **志賀島** (5) **漢委奴国王**（「**國**」も可） (6) **邪馬台国**

授けられた印は金印で、福岡県の志賀島で見つかり、「漢委奴国王」と刻まれています。史料Cの女王は卑弥呼で、邪馬台国の女王です。【6・7】

- (7) **イ** (8) **朝貢** (9) **ウ**

(7) 100余りから30ほどに減ったのは、くにどうしがまとまったからと考えられます。(9) 皇帝に王と認められると、国内でも強い立場に立てました。【6・7】

(10)（例）日本にはまだ文字が無く、文字を使っていた中国の歴史書に、日本のことが書かれていたから。

入れる語：「文字が無い」「中国の歴史書」。【6】

6【8ページ】

- (1) **古墳** (2) **前方後円墳**
(3) **大仙古墳（仁徳陵古墳）** (4) **埴輪**
(5) **大和政権** (6) **大王**
(7) **ワカタケル大王**

古墳は王や豪族の墓です。大仙古墳は大阪府堺市にある日本最大の前方後円墳です。稲荷山古墳（埼玉県）の鉄剣と江田船山古墳（熊本県）の鉄刀に同じ名が刻まれていました。【8】

7【9ページ】

- (1) **高句麗** (2) **百済** (3) **新羅**
(4) **加耶（加羅）** (5) **B・D**
(6) **倭の五王** (7) **渡来人**
(8) **イ → ウ → ア**

朝鮮半島は、北部が高句麗、南西部が百済、南東部が新羅、南部が加耶地域です。大和政権は鉄などを求めて百済・加耶地域の国々と結びつきました。土器は、縄文土器 → 弥生土器 → 須恵器の順です。【9】

8【10ページ】

- (1) 打製石器 (2) 定住
- (3) くに (4) 渡来人
- (5) エ → イ → ア → ウ

旧石器時代は打製石器を使い、移動しながらくらししました。縄文時代はむらをつくって定住しました。弥生時代は稲作で身分の差や争いが生まれ、くにと王が現れました。3世紀後半から古墳がつくられ、渡来人が技術や文化を伝えました。年表は、日本列島の形ができる（約1万年前）→ 稲作が伝わる → 古墳がつくられ始める（3世紀後半）→ 仏教が伝わる（6世紀）の順です。【10】